

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300116		
法人名	株式会社 マジェスティック		
事業所名	芦刈紀水苑		
所在地	小城市芦刈町永田3220-2		
自己評価作成日	平成25年2月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成 25 年 4 月 5 日	外部評価確定日	平成25年5月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療機関とは24時間連携が取れており、入居者のみならず、ご家族、スタッフのすべてが健康管理への不安なく生活できている。入居期間の長い入居者様も多く、入居者様・ご家族様・スタッフとのなじみの関係が出来ている。地域の方とのつながりもあり、地域の方の参加での避難訓練も実施できている。理学療法士の指導を受けながら、リハビリ器具を使つてのリハビリや、生活リハビリを通して、入居者様の機能維持に努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は小城市の南部に位置し、六角川を挟み白石町福富に隣接し、国道444号線沿いの住宅地の中に所在している。建物は防音のためペアガラスを使用しており、室内は騒音もなく落ち着いた環境造りとなっている。医療機関とは24時間連携が取れており、入居者の健康管理への不安はない。又、ケアマネジャーが理学療法士でもあり、毎週定期的に機能回復訓練の指導をしている。共用器具やテーブル等には清潔を心掛けており、衛生除菌水を使用し感染症等の予防に力をいれている。玄関横には職員の顔写真と名前を掲示して有り、外部者に職員の責任の所在を明確にしているように見受けられる。入居者の居室入り口には歩行可能者と車イス使用者をイラストで表示して、万一の時の外部の方へのメッセージとしている。職員研修は月1回紀水苑合同で開催され、種々のテーマの研修を受講し、職員の質の向上を図っている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とのまじわりのなかで、ゆっくりと健やかにお互いを尊重しあう」を理念として入居者様に接している。玄関とリビングに理念を掲げて、いつも目に付くようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作り上げ、玄関やリビング等に掲げ、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶を交わしたり、地域の祭りや避難訓練などの行事を通しての交流が来ている。近所の理美容店から散髪に来ていただいている。	事業所は住宅地に所在し、散歩時には挨拶を交わしている。隣接の理美容店からは散髪をして貰ったり、前の民家の駐車場を借りたり、地域のお祭り時には太鼓の披露をして貰っている。地域の自治会にも加入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	苑の行事を通して、認知症への理解を深めていただいている。支援方法の発信はなかなか出来ないが、機会があれば実践したいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今期は話し合いの場を設ける機会が少なかったが、行事などを通して理解をしていただいている。	運営推進会議では、行事や入居者の動向や避難訓練・外部評価等の報告等をしている。そこで出された意見等については、職員で話し合い運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などを通して、実状は理解していただいている。	運営推進会議には市担当者の出席があり、事業所の実情を理解して貰っている。地域包括支援センター(おたっしゃ本舗)とも連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による弊害や禁止行為については、勉強会やスタッフ会議を通して、理解しており、拘束をしないケアに努めている。	身体拘束の弊害については管理者・職員とも理解しており、研修会やスタッフ会議を通して拘束をしないケアの支援を行っている。玄関は二重のドアとなっており、鍵かけはしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して高齢者虐待についての理解を深めている。日常は、入居者様の表情などに注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して権利擁護についての理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时、契約時に十分な説明を行い、わかりにくい点については、細かく説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に要望を聞くようにしている。意見は出にくいので、面会時や、家族会のときにこちらから働きかけを行っている。	家族からは契約時や日頃の面会時に要望を聞くようにしている。また、年2回家族会を開催しており、社長・理学療法士・職員を交え昼食を共にしながらの意見交換会を実施している。入居者の誕生日にも家族に来てもらい、意見や要望等を表せる機会をつくっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議にて意見や提案を聞けるようにしている。緊急事案については随時意見を聞き、反映させている。	月1回スタッフ会議を開催しており、管理者は会議で意見や提案を聞くようにしている。また、日頃から職員は主任を通して意見や要望を表して、運営に反映出来るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力・勤務状況について、代表者は把握をしており、出来る限り給与などに反映させるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人にあった研修機会を設けている。外部研修の際には、休み希望にも応じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	FC交流研修や勉強会を通じて、交流機会を持っている。情報交換や対応方法など相談する事も出来る。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会をし、本人や担当者、ご家族から話を聞く事で、不安や要望を理解し、安心してサービスを開始できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前やサービスを開始する段階でご家族と話をすることで、不安の解消や要望に応えられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を把握し、理解することで、初期の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居期間の長い入居者様が多く、なじみの関係が出来ている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の悩みや話を聞く関係が出来ており、よい関係が気付いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会についての制限などは行っていない。事情があらわれる場合には注意をして対応している。	車イスの利用者が多くなり、外出は少々困難になっている。しかし、遠方からの面会には入居者と同室でお泊りいただいたり、手紙を頻りに送って貰っている。又、近隣の方は農作物を持参されたり、皆の好物の卵の差し入れ等もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに助け合われる場面が多く、ほほえましい場面が多い。苦手な方がいる場合には、職員のほうでうまく対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の相談や問い合わせにはいつでも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ひとりひとりの希望には出来る限り応じるようにしている。希望・要望が出にくいのが現状だが、答えが出しやすい問いかけを心がけている。	入居者一人ひとりの生活歴を把握して、日々の関わりの中から思いや暮らし方の希望や意向の把握に努めると共に、表情や動作を観察して、本人本位のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に生活歴を聞き取りし、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察を細かく行い、状況把握に努めている。健康状態については、1日2回もしくは3回のバイタル測定を行い、異常発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議で全スタッフから意見を聞いたり、家族からの要望を聞くようにしている。ケアマネの専門的な意見も盛り込んで介護計画書を作成している。	担当制をとっており、担当者を中心にモニタリングをしている。月1回のスタッフ会議では、入居者の変化等細かく観察し、全員で意見を出し合い、家族の要望等汲みしながら現状に即した本人本位の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化や気づきなどを細かく記録するように努めている。1ヶ月単位の状態を把握しやすいような記録に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのときそのときの状況に応じて柔軟な対応をするように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として施設を受け入れてもらっており、そのなかで安心して暮らしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、今までのかかりつけの医師への通院か、苑への往診のどちらかを選択してもらっている。	家族や入居者の希望での診療を受ける事が出来る。協力医療機関とは24時間対応が出来き、往診も行われている。通院は原則家族の対応としている。歯科は訪問歯科の利用を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間いつでも連絡が取れるので、異常時や相談にはすぐに対応してもらい、必要な往診や訪問看護を受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行くなどして、病院関係者との情報交換をしながら、関係作りに努めている。退院に向けてのカンファレンスの場を設けていただき、施設の状態を理解していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設でできるターミナルケアについて説明している。ターミナルと診断された入居者様に関しては、ケア方針について、ご家族・主治医・施設側との話し合いの場を設け、ケアをすすめた。	ターミナルケア(看取り介護)の指針を入居時に家族に説明をしているが、重度化した場合は、その都度納得のいく説明をして希望に添うようにしている。現在までに1例看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時にはいつでも対応できるような体制を整えている。応急手当の方法の勉強会は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。消防署や地域の住民の方の参加も得られている。	年2回昼夜を想定した避難訓練や消火訓練を行っている。避難訓練には地域の人や地元消防団員の参加もあり、消防署の専門的な指導も受けている。避難場所も第1を近隣の空地、第2地域公民館、第3市立コミュニティひまわりと定め、全職員理解している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。	入居者のその人らしさを尊重し、プライバシーを損ねない様に言葉かけや接遇に気配りして支援している。特に排泄時には配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を出せない方が多いが、答えが出しやすいような言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の一日のながれはあるが、その時々の方のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所に鏡とブラシを用意して、ご自分で整髪したりできるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には片付けなど手伝っていただいております、生活の張りにつながっている。	食事の盛り付けなど、出来ることは、入居者に手伝ってもらっており、職員は介助をしながら同じテーブルで同一の食事を摂っている。誕生日等には希望のメニューにするなど食事が楽しみなものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの摂取量を把握している。不足しがちな水分は、飲み物の種類をかえたり、トロをつけたりして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレチェック表で排泄のパターンを把握し、個別に対応をしている。	トイレチェック表で排泄のパターンを把握し、布パンツ、リハビリパンツと個別に対応している。居室にポータブル便器を使用している入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に取ってもらい、便秘を防いでいる。排泄状態も把握している。個別に整腸作用のある飲み物を飲んでおられる方もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に週3回の入浴・清拭を行っているが、その都度対応している。シャワー用車椅子なども用意している。	基本的に週3回の入浴としているが、希望すればその都度対応している。浴室は清潔でシャワー用車椅子等も用意し、身体的状況に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に応じて休息してもらっている。リビングにあるベットも活用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については、すぐに確認できるようにファイルしている。服薬漏れがないような工夫をしたり、薬剤師との連携も取れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に応じて対応している。手伝いをしてもらう事での出来る喜びを感じてもらっている。ただし逆の場合もあるので、その時々に応じて対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年行事として、外出の機会を設けるようにしているが、現状として外出は難しい状況にある。季節のよいときには、スタッフや家族との散歩を楽しまれる方もおられる。	入居者が年々高齢化し、車椅子の人が多くなり、日常的な外出が少なくなっているが、花見や敬老の日お祝等には家族の協力の下に外出に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解はしているが、お金を所持する方は少ない。お守りとして、小額のお金を所持されている方はおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にお便りを送ってくださるご家族様がえられる。希望に応じて電話をかけられるかたや、個別に携帯電話を持っている入居者様もえられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい空間となるよう、わかりやすい言葉を使うように気を配っている。季節がわかりやすいような室内装飾を心がけている。大きな日めくりカレンダーは日にちを理解するのに重宝している。	共用の空間を心地良く過ごせるように清潔に気配りをして、衛生除菌水で物品の使用毎にふき取りをしている。リビングも広く、ゆったりと過ごせる配置で、壁等には季節を感じさせる装飾など工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ全員の方が、一日のほとんどをリビングで過ごされているが、気のあった方同士の席で過ごされている。時には自室に戻って過ごされる方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものを持ち込まれる事を勧めてはいるが、それを嫌う方もおられるので、その方に応じて対応している。荷物が多い事がかえって不穩の原因となることもあるので、気を配っている。	居室は入居者それぞれで好みの部屋づくりをされている。家族からの手紙や写真を飾ったり、プレゼントなど思い出の品を飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には目印をつけたりしている。必要と思われる場所には手すりを設置して安全かつ残存能力を活かして過ごせるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
		2013/5/9	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない